

● 最近の県内経済

基調判断

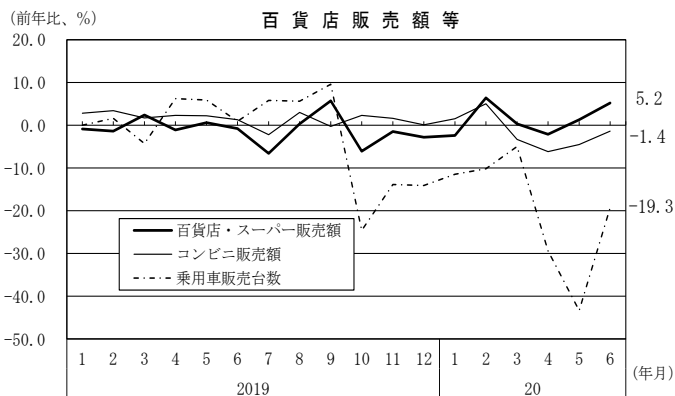
(2020年6月を中心として)



今月の概要

県内景気は、新型コロナウイルス感染拡大による経済への影響から悪化しており、厳しい状況にある。

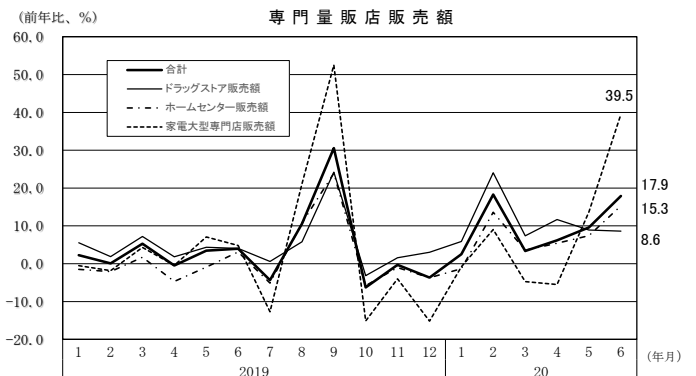
1 個人消費 低水準でやや持ち直し



(資料) 経済産業省、埼玉県自動車販売協会など

6月の百貨店・スーパー販売額(店舗調整前)は、1,098億円で前年比5.2%増となった。百貨店は同7.8%減と9か月連続の減少となったものの、減少幅は前月の同66.8%減から大きく縮まった。一方、スーパーは同7.8%増と5か月連続の増加となった。また、コンビニ販売は521億円で同1.4%減と4か月連続の減少となった。

乗用車販売は、同19.3%減と9か月連続の減少となった。内訳をみると、普通車(同19.5%減)、小型車(同24.3%減)、軽乗用車(同14.4%減)とともに減少した。



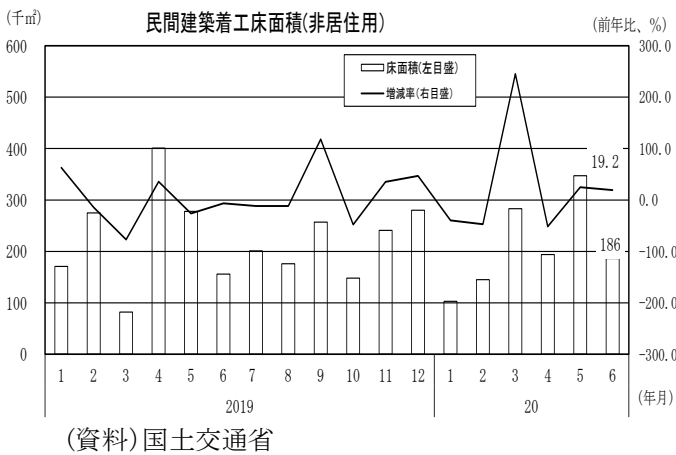
(資料) 経済産業省

6月の専門量販店販売額は、807億円で前年比17.9%増となった。内訳をみると、家電大型専門店が238億円で同39.5%増、ドラッグストアが379億円で同8.6%増、ホームセンターが191億円で同15.3%増となった。

個人消費は、特別定額給付金やキャッシュレス・ポイント還元事業の駆け込み需要の影響などにより、一部衛生・生活用品(食品、家電)の売上が足元増加したものの、消費全体としては2月以降落ち込んでいる。

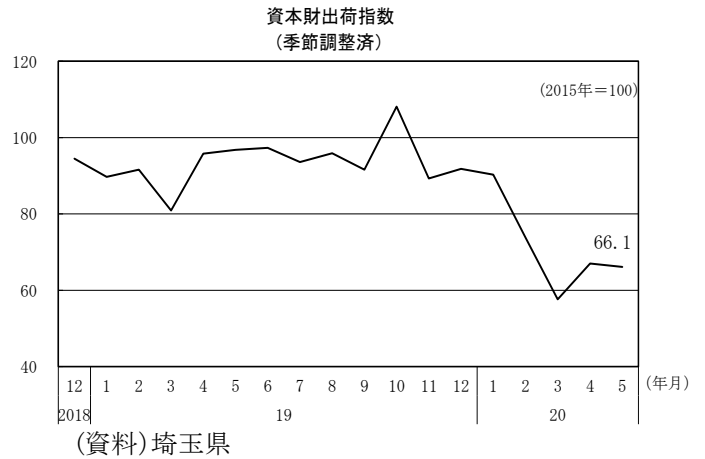
関東の消費者態度指数(原数値)は、5月〈23.9〉、6月〈28.0〉、7月〈28.7〉と低迷している。

2 設備投資 基調として減少



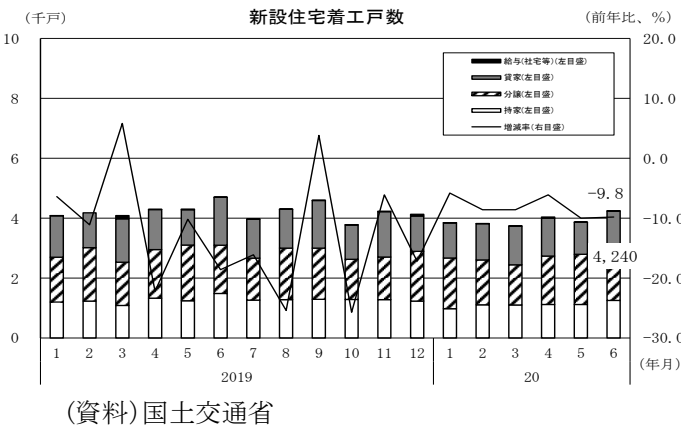
6月の民間建築着工床面積（非居住用）は、186千㎡で前年比19.2%増となった（年初来累計では同7.7%減少）。

用途別にみると、倉庫及び病院・診療所が増加した一方、事務所、店舗、工場及び作業場はいずれも減少した。



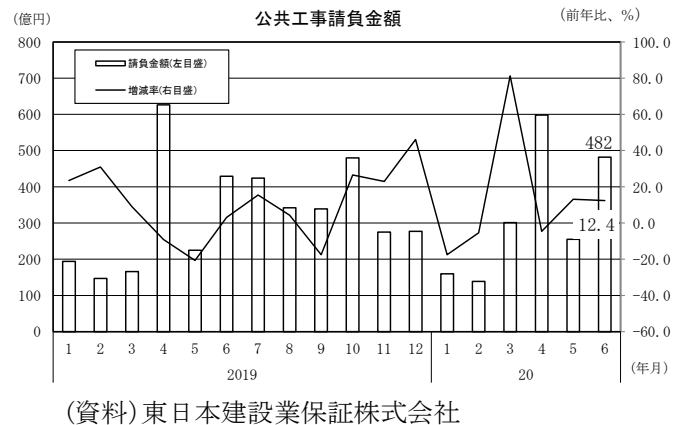
5月の資本財出荷指数（季節調整済）は、66.1で前月比1.3%の減少となった（2か月ぶりの減少）。

3 住宅建設 減少



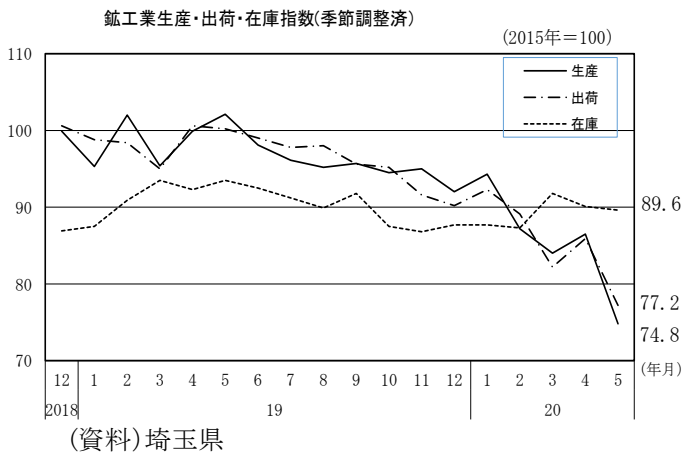
6月の新設住宅着工戸数は、4,240戸で前年比9.8%減と9か月連続の減少となった。利用関係別にみると、分譲マンション（636戸）が同131.3%増となった一方、持家（1,256戸）が同15.5%減、貸家（1,148戸）が同28.4%減、分譲一戸建（1,198戸）が同10.2%減となった。

4 公共工事 増加基調



6月の公共工事請負額は、482億円で前年比12.4%増となった（5か月後方移動平均でみると前年比11.4%増）。発注者別でみると、国、独立行政法人等、都道府県、市町村ともに増加した。

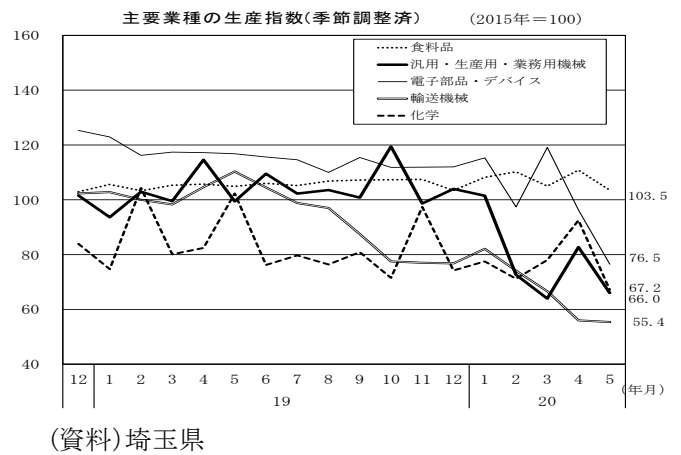
5 生産活動 大幅に低下



5月の鉱工業生産指数(季節調整済)は、74.8で前月比13.5%減少(2か月ぶりの減少)。前年同月比では、28.2%の減少(15か月連続の減少)。化学(医薬品、化粧品)、生産用機械(フラットパネル・ディスプレイ製造装置、食料品加工機械)、情報通信機械(カーオーディオ、カーナビゲーション)などが低下した。

出荷指数(同)は、77.2で同10.1%低下した(2か月ぶりの低下)。情報通信機械(ガス警報器、交換機)、皮革製品(革靴)などが上昇したが、化学(医薬品、化粧品)、非鉄金属(アルミニウム鋳物、伸銅製品)、プラスチック製品(プラスチック製容器、フィルム)などが低下した。

在庫指数(同)は、89.6で同0.6%低下した(2か月連続の低下)。パルプ・紙・紙加工品(段ボール原紙、衛生用紙)、輸送機械(乗用車、完成自転車)などが上昇したが、情報通信機械(ガス警報器)、電気機械(鉛蓄電池、食器洗い乾燥機)、金属製品(スチール製缶、アルミエクステリア)などが低下した。



◆ 食料品の生産指数(季節調整済)は、103.5で前月比6.6%低下し、2か月ぶりの低下となった。

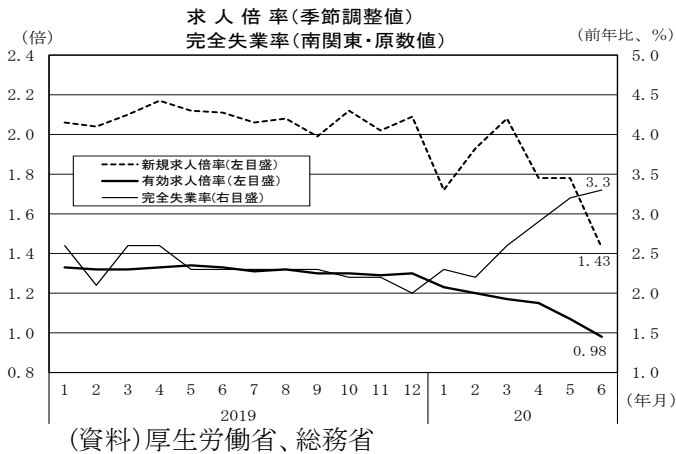
◆ 汎用・生産用・業務用機械(同)は、66.0で同20.2%低下し、2か月ぶりの低下となった。

◆ 電子部品・デバイス(同)は76.5で同20.5%低下し、2か月連続の低下となった。

◆ 輸送機械(同)は、55.4で同1.1%低下し、4か月連続の低下となった。

◆ 化学(同)は、67.2で同27.4%低下し、3か月ぶりの低下となった。

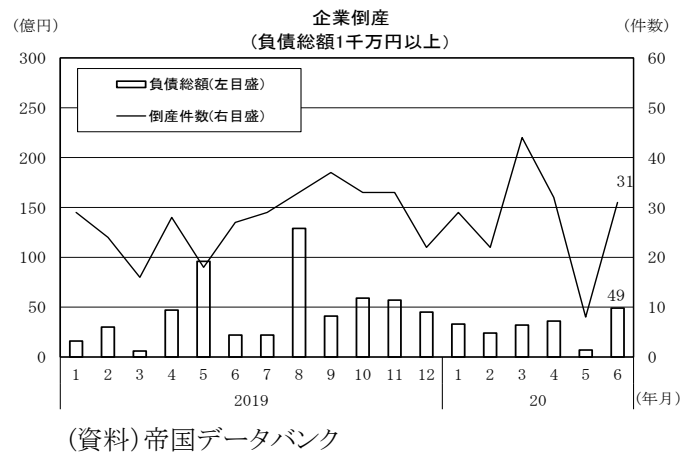
6 雇用情勢 悪化している



6月の有効求人倍率(季節調整済)は、0.98倍で前月比0.09ポイント低下した(6か月連続の低下)。1倍を下回ったのは、2016年3月以来4年3か月ぶり。新規求人倍率(同)は、1.43倍で同比0.35ポイント低下した。

完全失業率(南関東、原数値)は、3.3%で前年同月比1.0%上昇した(3か月連続の上昇)。

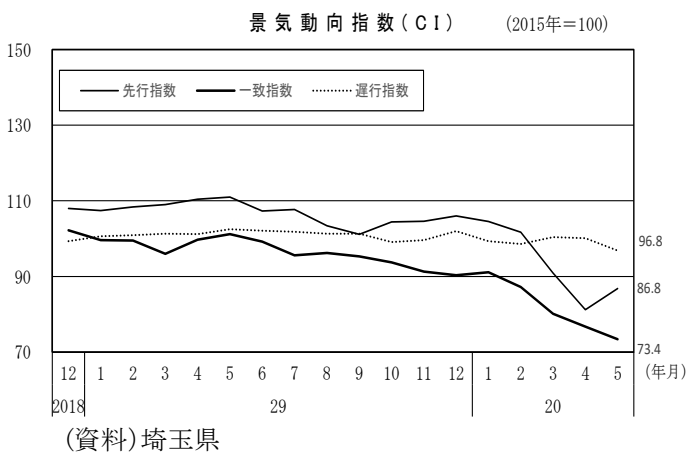
7 企業倒産 増加基調



6月の企業倒産件数は、緊急事態宣言の発出に伴い法的整理手続きが滞留していた前月の反動から、31件で前年比4件の増加、負債総額は49億円で同27億円の増加となった(5か月後方移動平均でみると、件数は前年比21.2%増、金額は同26.4%減)。業種別にみると、製造業が10件で最も多く、次いで卸売業が7件、サービス業が5件、建設業が4件と続いている。主因別では、販売不振が26件となっている。

〈参考〉

景気動向指数(CI) 悪化を示している



5月のCI一致指数(景気の現状を示す)は、73.4で前月比3.3ポイント低下し、4か月連続の低下となった。

CI先行指数(景気の数か月先を示す)は、86.8で同5.6ポイント上昇し、5か月ぶりの上昇となった。

CI遅行指数(景気に遅れて反応する)は、96.8で同3.3ポイント低下し、2か月連続の低下となった。